

「府立成人病センター建替えの検証に関する専門家会議」委員に対する 質問及び要請

平成23年8月11日
自由民主党大阪府議会議員団

1 専門家会議の進め方について

専門家会議の委員は現地建替えや移転建替えを経験した医師や建築等の専門家で構成されており、会議を進めるうえで、それぞれの専門的分野についてのみ意見を述べるべきだと考える。各委員の専門分野以外の発言は会議の目的と大きく逸脱しており、議論は深まっていなかったと考える。各委員の専門分野に関する意見のみ取り上げ、議論を深めるべきであったと考えるが、会議進行に問題はなかったのか。（座長）

2 検証の方法について

先の2月議会で提示した現地建替え案と、部局の提示している大手前移転案と単純に比較検討することに異議を申し立てる。
専門家会議では、それぞれの案を単純に比較するのではなく、自民党の現地建替え案を検証し改善したうえで、「現地建替え」「移転建替え」のメリットとデメリットを比較検証すべきであると考える。なぜ、1回目の会議からそのような議論ができなかったのか。（座長）

3 整備費用について

＜40.5万円/m²での比較はなぜか＞

整備費を公平に比較するためには、両地区的減額要因、増額要因を丁寧に整理すべきであったと考える。

現地建替え、移転建替え双方とも建設コストは平米単価40.5万円となっているが、なぜ同じ単価で考えているのか。

大手前地区の地下通路や立体駐車場整備費（設計費、建設費、土地代）など、金額が明らかなものは資料に明記したうえで検証するのは当然だと考える。また、現地建替えの場合は、立体駐車場の地下にある既存の特別高圧受変電施設が使用できるため、新たに設備を整備する必要もないと考える（概算で約8億円程度）。また、地下階も1層少なくするため、整備費（概算で約6億円～7億円）は更に減額出来ると考えている。

加えて質問員からは、現地の方が単価が上がるという意見が出ている。しかし現地建替えと言いながら、厳密には現病院を壊しながらではなく、別の場

所（公衆衛生研究所、環境農林総合研究所の移転後跡地）に建て替える計画であり、議論の真意はどういう根拠であるのか。（座長、筧委員）

また、専門家会議では、現地建替えの場合、工事期間中の診療機能の低下が指摘されているが、抽象的な表現で理解できない。下記の疑問点について専門家としてどの程度議論しているのかお聞かせ願いたい。

- ・どのような診療に影響ができるのか
- ・どの程度診療に影響ができるのか
- ・どのような工事で影響ができるのか
- ・工事の工夫次第で改善できないのか
- ・工法次第で工夫できるのにかかる費用はどの程度か
- ・診療機能低下に伴う減収はどの程度見込んでいるのか

（座長、筧委員、本田委員）

＜病院機構の経費負担について＞

大手前移転案と森之宮での建替えを比較すると、大手前に移転すれば、より地価の高い大手前の土地を病院機構が取得することに加えて、駐車場、地下通路の整備等に費用がかかるため、整備費用は高くなると考えられる。専門家会議では費用が高くても早期に建替えを、との主張がなされる一方、現地建替えでは工事による診療への影響から、病院の減収が危惧されている。

我々も2月議会では、工期を優先するあまり、病院機構に過度の負担をさせることは将来への投資や人材育成に大きな影響が出ることから大変心配し指摘をしてきたところである。専門家会議として、現地で建て替えた場合の「病院の減収」と大手前に移転した場合の建設コストをどのように考えられたのか。コスト比較に矛盾があると思われるが、どのような議論をされたのか。（座長、筧委員）

参考 土地価格 大手前 79万円/m²（概算鑑定額）
森之宮 29万円/m²（路線価）

4 早期建替えの必要性について

検証結果では、「確実に早期整備が図れる大手前地区での移転建替えに優位性がある」という結論になっている。

新病院になったからといって治療件数「外来」や「手術」等の治療件数が直ちに増えることはないと考える。なぜ早期建替えが必要なのかを丁寧に検証すべきであったと考えるが、専門家会議ではどのような検証をされたのか。

（全員）

5 診療に与える影響について

リニアック（放射線治療機器）による治療を待つ患者が1年後まで予定されていることは承知している。台数を増やして診療機会を増加させることができるのは当然だと考えている。しかし、リニアックは他の放射線治療等の代替治療法もあり、緊急性の要する患者は前倒しして治療を受けておられるので、1年待つことはないと聞いている。一概には言えないが、ドクターの判断で1年待っても問題ない患者が待っているとも考えられる。機能拡充できないことが、すなわち機能低下とイコールで議論されているのではないかと思うが、この点についての専門家としての見解を問う。

（今村委員）

6 整備期間について

＜遅延リスクについて＞

検証結果では、「確実に早期整備が図れる大手前地区での移転建替えに優位性がある」とされている。「確実に」と判断した理由は何か。現地建替え案では近隣のマンション住民の反対を遅延リスクとしているのに、大手前の地元住民の成人病センター立地反対をリスクとしていないのはなぜか。（全員）

現地建替え案について、近隣住民のトラブルや工事用車両の乗り入れに支障があるなどとして、工事の遅延が懸念されている。しかし成人病センターは、現地で3回の建て替え・建て増し「昭和52年 新病院棟」「平成13年 健康科学センター」「平成16年 立体駐車場」を経験している。さらに、平成18年には森之宮クリニックが建設されている。これらに関して我々が調査した限りでは、住民とのトラブルで工事に混乱が生じたことや、病院の診療機能が著しく低下したり、反対に病院の診療を優先することで工事が遅延した記録もないと聞いている。専門家会議では過去の工事状況を検証すべきであったと考えるがなぜ検証していないのか。（座長）

＜入札準備について＞

現地建替えの場合、新公衆衛生研究所の建設工事期間には、施工業者を選定するための発注準備期間が含まれていないと専門家会議における資料に記載しているが、それは設計等の期間に並行して実施可能と考える。資料に記載している理由は何か、その記載に関して専門家の議論はどのような議論であったのか。（座長）

7 患者や家族の視点

専門家会議での議論は患者さんからの視点がほとんど欠けていると思われる。眺望など、一般論のみで、実際に来院されている患者さんの意見は全くない。自民党独自のアンケート調査によるとほとんどの患者さんは森之宮での建替えを望んでいる。患者の視点に立てば、交通アクセス（患者、家族）、療養環境等なぜもっとつっこんだ調査や議論が出来なかったのか。（全員）

療養環境の点でも、各委員の発言で患者の立場に立ったような発言があったが、現在、入院、通院されている患者の意見はどのように反映されているのか。専門家会議を開催される前に、アンケート調査等は不必要であると判断されたのか。（座長）

＜交通アクセスについて＞

成人病センターの入院期間は概ね2週間程度であり、退院後は年単位での通院を余儀なくされているのが現状である。

患者の多くは高齢者の方が多く、術後は体力が著しく低下している。また、抗がん剤治療は患者の体に大きな負担を与えるため、歩行距離の長い通院は大変つらいと思われる。交通アクセスの考える場合、健常者と同じ感覚で議論をすることは非常識であると考える。また、調査会社のデータは信憑性に欠けるものであり、資料には乗り換えのための歩行距離、階段等の記載もなく、患者の視点に立っていない。

そういう意味では、成人病センターの交通アクセスは立地を考える上で大変重要な要素であり、再検討が必要だと考えるが専門家のご意見はどのような見解なのか。（全員）

＜参考として＞

◆JR 森之宮駅（ホーム真ん中付近）から新病院の入り口付近（公衆衛生研究所付近）まで 約4分20秒（徒歩）

◆地下鉄谷町4丁目（中央線のホーム真ん中付近）から新病院の入り口付近まで 約8分30秒（徒歩）・・・エレベーター待ちは約30秒
エレベーター移動時間約51秒

ホームから改札までの階段は27段、エレベーターの使用は改札を出てから使用。

なお、JR の階段と地下鉄の階段は少し高さに差があり。JR の方が緩やか。

8 将来の発展性について

大手前移転案の場合、容積率に余裕があれば将来の機能拡張を見越して、中間階に1フロア持つという事例があるなどという意見があった。

しかしながらこうした手法をとれば、府の整備機構構想で示した 65,000 m²以上の延床面積を確保する必要があり、事業費も増額することになる。この点について専門家会議はどのような見解か。（座長、覧委員）

検証結果で示されているように、大手前地区について、「現計画地の 1.2ha だけでなく、将来の機能拡張のための用地の確保や設計上の工夫をすることも検討すべき」いう意見があった。また、「ガン医療を取り巻く技術革新は日進月歩であり、新たな治療法や診断法などの研究開発は急速に進んできている」との意見である。成人病センターの建替えの目的の1つに、日本をリードするガン専門病院を目指すという役割からみても、現状では、大手前地区は、森之宮に比べると劣るのではないかと思われる。専門家の先生方は同センターの将来像や拡張のスペースの必要性をどのように考えておられるのか。また、専門家会議でしっかりと議論し大阪府に提言すべきであったと考えるが、いかがか。（全員）

9 成人病センター大手前立地後のリスクについて

＜大手前への病院機能の引っ越しについて＞

- ・財政負担をどの程度見込んでいるのか
- ・患者への負担はどのように考えているのか
- ・診療機能の低下はないのか（医師やスタッフの連携等）
- ・森之宮の周辺施設との連携をどのように考えているのか
(森之宮クリニック、健康科学センター、がん検診センター、公衆衛生研究所等)

特に今後 PET 検査をどうするのか、同センターに設置するのか等の議論が出来ていない（費用等）。森之宮クリニックとの連携（距離等の問題、患者の利便性等）（大阪府（病院機構））

＜大手前の療養環境＞

大手前と森之宮と療養環境にどのような差があるのか。（座長）

10 大手前に移転後のまちづくりについて

大手前に立地後、大手前・森之宮まちづくり協議会の案では病院東側や周辺にホテル等の建設が予定されている。同センターが大手前に立地しても、周辺施設の工事期間中は必ず、同センターの患者には大きな影響が出ると考え

られる。

大手前に移転する方が患者への負担が少ないと判断されたのであれば、同センター周辺には他施設が建設できないことが前提で議論されたのか。

そのような条件であれば、大手前の同センター周辺には他の施設が立地できないことになるが、専門家会議ではそのような視点で議論されたのか。

現地建替えの場合は新病院建設時、大手前では新病院が出来た後に病院とは無関係な開発が行われる予定であり、いずれにせよ大規模な工事があると考えられることから、工事期間に患者に影響が出るのは双方同じ条件であると考えられるが、その点は議論されたのか。（座長）

＜森之宮の跡地利用＞

病院跡地は、様々な要因から、住居やたくさん的人が集まる施設を作るのは難しいのではないかと思われるが、専門家会議の意見はどうであったのか。大阪府は成人病センターの跡地を売却する方向で検討しているが、病院跡地ということで、買い叩かれことがあるのではないかと心配している。

その場合、成人病センター建設及び土地購入で、病院機構に大きな費用負担がかかり、さらに、大阪府側にも当然計算に入っていると思われる売却による収入減があるということになってしまい、この厳しい財政状態において、二重の損失になってしまう恐れがあるが、この点について専門家はどう考えるのか。（座長）

成人病センター移転後の地域住民との関係をどのように考えているのか。また、住民との関係悪化により、移転後のまちづくりに大きな悪影響は出ないのか。（全員）

1.1 会議日程について

3回の日程に関しては、府側からの説明は「委員が集まることのできる日程」との説明で地域住民からの日程の変更に応じてこなかった。しかしながら3回目の会議では本田委員は欠席で、しかも決定内容は座長一任という確認をとって事前に決定内容が決っていたかのような印象であった。本田委員とどのような議論をしたのか。（座長）

1.2 公衆衛生研究所について

現地建替えの場合は、公衆衛生研究所の移転が必要なため、「移転先の選定、入札等の期間が必要」とされている。しかし、移転候補地であるりんくうタウンのある泉佐野市は、千代松市長も公衛研の移転受け入れに反対ではない。また、今まで府議会でりんくうタウンへの移転について議論をふかめてお

り、知事の政治決断一つで、移転手続きは進められると考えているが専門家会議での議論はどのようなものであったのか。（全員）

成人病センター大手前移転案では、公衆衛生研究所が健康科学センター内に移ることになっている。同じ区の近隣地であるとはいえ、移動するにあたって住民同意が得られるかは疑問である。

特に、P3のある施設のちかくに、大手前・森之宮まちづくり協議会で候補にあがったマンション、介護施設、老人ホーム、ショッピングセンターの立地は、より難しくなると思う。この点について、専門家会議で議論されるべきであったと考えるが、どうか。（座長）

13 今村委員の発言について

専門家会議において「成人病センターは、森之宮でなきゃ絶対にいけないんでしょうか。何かそれは大きな要因はありますか。自民党さんがこんなポンと出してくる。今までそんなこと考えてないものまで出てくる。何か後ろに控えているのがあるんじゃないかと。それから、新天地を求めて行くのは昔からフロンティア精神で、働いている者にはモチベーションが上がるし、患者さんにも凄く良いものが出来て来ると思うんです。何か後ろに、現地にそのまま残るというのには、何か泥臭いものがあるんじゃないかなと推測しかねることがあるので。ちょっとその辺が大なり小なり私の頭の中にひっかかるものがあります。」という趣旨の発言があったと聞いているが本当か。発言の真意をお聞かせ願いたい。言葉通り解釈すれば、今村委員の発言は地元住民を侮辱するものであり、永年に亘る真摯に議論を重ねてきた大阪府議会への冒涜と侮辱であると考えるが、発言の真意を問う。（今村委員）

最後に

専門家会議での議論が成人病センターの建替え場所を決める重要な要因になっていることは明白であります。当然のことながら、十分時間をかけて、専門家の先生方がそれぞれの分野で、慎重且つ十分な検討行われることが求められています。言うまでもなく、今後の大阪のあるべき「まちづくり」の視点に立ち、「コスト」や「工期」「患者の利便性、交通アクセス」「診療機能」等、専門分野で検討しなければならないということは理解していたはずであります。しかしながら、計3回に亘る会議の内容をお聞きしますと、十分な議論がされていないと感じております。大阪の将来にとって間違いない判断ができるよう、再度、専門家会議を開催し府民に見える形で再検討するべきであると考えます。（全員）

また、大阪府議会でも本府の職員を通じて検討内容の説明を受けるのではなく、委員会等で専門家の先生方にご説明して頂ければ、理解が深まる感じます。大阪府議会に委員全員がご出席頂き、ご説明をお願致します。(全員)